

白毛門山～笠ヶ岳山行記録



笠ヶ岳と朝日岳



谷川岳東面



笠ヶ岳山頂より朝日岳



岩場の登り



白毛門山頂



笠ヶ岳避難小屋

目的地	白毛門山～笠ヶ岳	期 日	平成20年10月30日(木)・晴れ
山人	笠原正雄・加藤イツ子・荒木幸代・樋口ひさえ	特 記	かしまし～sと天気を追いかけて群馬の山へ

地 点 名	時 刻	記 事
中之島 P 発	午前 6:00	ここで待ち合わせて、水上 IC まで高速利用。越後は曇り。
土 合 橋 P	7:55 発	群馬は晴れ。山には雲がかかっているが、水上側に青空が見える。他に 1 台あるのみ。カッターシャツで歩き出すが、10 数分登った所で脱ぐ
左 の 展 望 が 開 け る	8:45	左の展望が開けた所で立ち止まる。だんだん晴れが広がって来て、天神平が良く見える。谷川岳頂は曇っているが、ラクダノコブが見えて来た。
白 毛 門 が 見 え て 来 た	9:05～9:10	広い所に来て休む。松ノ木沢頭越しに白毛門のピークが白く雪化粧をしている。日が当たっていて、見ているうちに雪が解け出して、山肌の色が変わってくる。
松 ノ 木 沢 頭	10:00～10:15	鎖のついた岩場を登りここに。一ノ倉岳ピークの雲が取れて来た。双耳、武能にはまだ雲が掛かっている。茂倉の山容も分かる。谷川岳東面岩壁が薄雪化粧をまとって美しい。右手は至仏・燧ヶ岳、武尊・皇海山と良く見える。絶景である。
白 毛 門 山	11:05 着	登路に雪が残っていた。北側の灌木に霧氷が付いている。かしまし～sの口から何度「キレイ」と言う言葉が出たのだろうか。俺ももう一度絶景と記す。暫らくそれを楽しみ、芋煮準備のため、一人先行する。笠への鞍部で単独者とスライド。先を急いでいて気付かなかった。苗場を一緒に登った埼玉の増田さんであった。
笠 ヶ 岳	11:55	先に続く縦走路も北斜面が白くなっていて美しい。少し下がって避難小屋へ。床にはシート、銀マットが敷かれていて、快適なスペースだ。豚肉、大根、ニンジン炒め、里芋を混ぜ合わせて水を加え醤油味で煮る。軟らかくなったら、舞茸とネギを入れて更に少し煮て、味噌で調味し芋煮の出来上がり。
下 山 へ	午後 1:45	例によって予定時刻を超過してしまった。外に出てから巻機や会津駒等を眺めていて歩き出しが遅れた。下に着く頃は暗くなりかけるだろう。
白 毛 門	2:45 発	ここで再び山の景色を眺める。逆光等ではっきりする、しないはあるものの良く見える。浅間山の噴煙も見える。上山時と山の色が変わって来て、今一番映えて見えるのは朝日岳から七ツ小屋山方面だ。去りがたいが下らぬ訳にはいかない。
土 合 橋 P	5:10	薄暗くなって到着。もう少し遅ければ頭電が必要になる時刻であった。
中 之 島 P	7:10 着	3人と別れてから帰宅。

先週に勤務先を退いた。他の予定もあって、この3日間だけは自由に動けることとなった。平日山の多い加藤女史に連絡を取り、一緒に歩くことにした。当初は、未丈ヶ岳の紅葉と草原を楽しみたいと提案した。しかし、越後の天気予報があまり良くないので、群馬の山へ出かけることにした。魚沼を進めば、越後三山の峰々が白く見えて来た。そして、湯沢に入れば、谷川連峰の頂が更に白く見え、緊張感が沸いて来る。

登路の紅葉は終盤であったが、それでも、白毛沢対岸の紅葉は十分に楽しめた。また、以前より、このコースから谷川岳東壁の紅葉を見たいと思っていたが、少し時期が遅かったようだ。その代わり、降霜や薄雪をつけて沢がはっきり見えて、考えようによれば、好機に歩くことが出来たといえる。